

報道関係者の皆様へ

2008年2月吉日

変わらない心と、あたらしい心
和菓子とともに、日本の魅力を伝える

とらや東京ミッドタウン店ギャラリー 第6回企画展

唐紙の美 唐長展

— 陰影のゆらぎ —

<2008年3月20日～2008年5月29日>

とらや東京ミッドタウン店は、おかげさまでこの3月で開店一周年を迎えます。
和菓子だけではない和の様々な魅力や価値も広くお伝えしたいと、初めて店舗にギャラリーを併設し、また器や風呂敷といった和の美や技が生きた品々を集めてご紹介してまいりました。現代においても皆様の生活のなかで輝き続けることのできる様々な和の価値を、これからもお伝えしてまいります。
今回は、第六回のギャラリー企画展「唐紙の美 唐長展」についてご案内申し上げます。

◎ 「からちよう唐長」と「からかみ唐紙」

「唐長」は、和紙に様々な文様を板木で型押しするという、400年もの昔から変わらぬスタイルで「唐紙」を作り続ける唯一の老舗です。花鳥風月から吉祥文様、波などの風景を意匠化したものや、シルクロードを通じた東西交流の中で伝えられた文様を「唐長文様」として今に受け継いでこられました。これらの「唐長文様」は、洋の東西を問わず今の時代にも魅力的でモダンな文様でもあります。

和菓子もまた元禄のころに意匠が施されるようになり、とらやも当時の菓子意匠を今に受け継いでいます。和紙と菓子という異なる世界のものですが、意匠を生み出した基にあるのは、私たちの心の中に生きてきた美意識や心です。文を綴って思いを伝える紙、もてなしの場で供される菓子、それらに込める思いは共通なのでしょう。相手を思うもてなしの心で紙や菓子を選ぶ。そういう中で洗練され磨かれてきた意匠は、今の私たちの生活のなかでも、皆様に共感をいただけるものと考えます。

今回は、陰影によって華麗に煌めく唐紙の世界を、春のお花見のようにお楽しみいただけるようギャラリースペースを設えました。春のひと時を、受け継がれた技と意匠の世界でお過ごしください。

◎ ワークショップ開催

唐長の職人による実演を交えた講演と、唐紙づくりを体験していただきます。

昔ながらの道具と唐長文様の板木を使った唐紙制作の後、第11代目当主千田堅吉様とご歓談いただきます。 <4月後半に、各10名・4回開催予定>

<展示情報>

場 所： とらや東京ミッドタウン店内 ギャラリー（東京都港区赤坂9-7-4 東京ミッドタウン ガレリア地下1階）

会 期： 2008年3月20日（木）～2008年5月29日（木）

時 間： 11:00～21:00（店舗営業時間と同じ） ※無休（東京ミッドタウン休業日に準じます）

掲載用問い合わせ先:とらや東京ミッドタウン店 03-5413-3541

取材用問合せ先:株式会社虎屋 広報部 03-3408-4128